

夢洲、一難去ってまた一難！でも一筋の光が？

文 加賀 まゆみ(夢洲生きもの調査グループ・理事)
写真 夢洲生きもの調査グループ

2021年2月から3月にかけては、前号で報告したように、5月の連休に予定されている花火イベントを延期してもらうために奔走し、コアシサシ繁殖保護エリア準備がすっかり遅れてしまった。3月末コアシサシは飛来し始めていたものの、保護エリアの水はけをよくするために溝を掘ってもらったり、デコイやシェルターを設置したりと、4月いっぱい準備がかかってしまい、やっと5月連休、カメラも設置し、「いつでもどうぞ」という状態にできた。が、肝心のコアシサシがなかなか定着しない。

そして5月20日の大雨。この日の大阪の降水量は例年の5月ひと月分。翌日の自動カメラには見事な水没風景が写っていた。全滅か？しかし今年はまだ繁殖活動をそう多くは見していない。1週間後またもや豪雨。いくら周囲に溝を掘っても、エリア内にはあつという間に水がたまる。去年は池だった場所だ。コアシサシが定着していなかったのは、野生の勘だったのか？

5月30日、保護エリアからコアシサシがいなくなっていた。私たちは繁殖の気配がないことを確認しながら、デコイを集めた。私たちより先に現地に設置していた建設会社の紙粘土製のデコイは、無残にも雨で溶けていた。

案の定、2区万博予定地の方で多数のコアシ

サシが繁殖活動をしていた。3区から完全に引越したのだろう。その数200ないし300羽。たくさんコアシサシが大きなサイズの小魚をくわえて飛び降り、求愛行動をしている。そこは地中の水分を早く抜くためのプラスチックボードドレン（不織布の白い板）が地中深く差し込まれ、その上部が地上に出て反り返って林立している場所。地面はコアシサシの好む砂利だ。以前からこちらのほうがコアシサシ好みの環境だと大阪港湾局に伝え、現地では防鳥対策がかなり施されていた。4月末からコアシサシが多数着陸しているのもわかっていて、がプラスチックドレンを差し込んですぐの時期だったので、しばらくは放置するはずだと高をくくっていた。だから放っておけばひっそり繁殖するかもしれないと。だがそれは誤算だった。行くたびにドレンエリアは新しい土に覆われていく。

大阪港湾局は、今年春の人事異動で昨年から人間関係を築いてきた各担当者が全員入れ替わっていた。それで新担当の皆さんに挨拶するために設定していた6月2日は、2区の工事休止を要求する団体協議の場が変わってしまった。「今から一緒に繁殖確認を」と促すが、大阪港湾局は「専門家に相談してから検討します」と言う。その日その足で、環境省・大阪府・大阪市と駆け

回り、保護の手立てを相談するが、どちらでも大阪港湾局との話し合いの中での解決をするようすすめられた。

工事が止まらなければ鳥獣保護法違反に問う構えで、自力で卵やヒナを探すしかないが、見つかるのは割れた卵の殻ばかり。なんとか無傷の卵4か所を見つけ、2区での繁殖は確実だとして、すぐに保護の要望書を提出。日本野鳥の会大阪支部も名を連ねてくださった。

週明け、大阪港湾局はすぐ現地を調査し、卵を確認。専門家に相談し、その週のうちにプラスチック板が露出しているエリアの半分近くを新しい保護区に指定してくれた。東京からの専門家も野鳥の会と共に港湾局の案内で現地を視察し、アドバイスしてくださった。

本来なら、プラスチック板が露出しているところ全部を保護区にしてほしかった。検討中も工事は続行し、結局保護エリアは当初コアシサシが着陸していた面積の約3分の1ほどになってしまった。だがそれでも水没した3区保護エリアと同等かそれ以上の広さがある。しかも水はけがよく、おまけにプラスチックの「シェルター」が林立している。今回、やきもきはしたものの、保護に向けて予想外のスピード解決だった。建設会社もコアシサシ保護という大きな看板を出し、(人間は)だれも入れないようにしてくれている。どうぞなんとか、ここで無事に巣立ってほしい。

6月25日、大阪市立自然史博物館からニュー

スが飛びこむ。夢洲2区の湿地で、大阪では絶滅とされていた水草「カワツルモ」が確認された。学会発表はまだだが、2区湿地が今すぐにでも埋め立てられそうなので、プレス発表をした、とのこと。コアシサシ保護区の工事が8月までストップしたので、反対側のヨシ群落から埋め立てをするということなのだろうか。この場所は生物多様性豊かな場所。昨年関西自然保護機構が保存の要望書を出し、協会も11月に要望書を提出している。

今年度で土砂投入が完了する計画だということの夢洲2区。コアシサシと同様、この湿地このヨシ原で育まれる数々の小さないのちもそれぞれが大切なものだ。「いのち輝く」万博のために、今日もひっそり何かが消えていつてるのだろうか。ごみ処理のために作った人工島に偶然生まれた自然の中で…。私たち人間に一度立ち止まって見よ、と言っているのかもかもしれない。



写真-1 2区プラスチックドレンの陰で、繁殖活動するコアシサシ(5月30日)



写真-2 防鳥対策のテープも効果なし?コアシサシが集う2区(6月27日)



写真-3 2区に新しくできた保護エリアの看板(6月27日)



写真-4 絶滅とされていた発見されたカワツルモは花を咲かせていた。(6月27日)



写真-5 もしもしたら、この幼鳥は夢洲生まれ? (7月4日)